

## 図書館建設 Vol. 2

～建築指示は依頼主ではなく絶対的存在のチーフのもとでのプロジェクト～

2021年6月14日 報告



2021年6月11日現在の外観 神殿を思わせるような玄関ポーチの柱



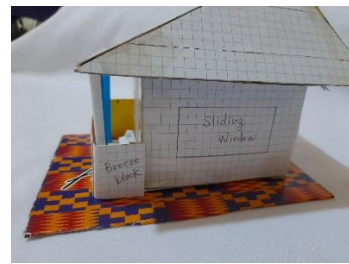
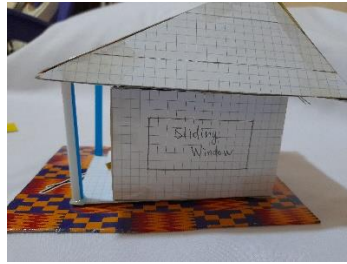
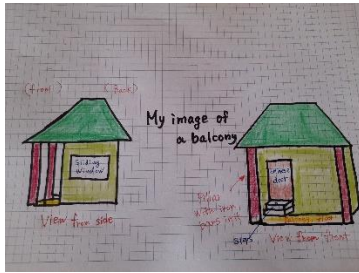
ガーナは本格的雨期に入り週間天気予報はほぼ毎日(雷雨)の予報となりました。青空の広がる日であっても黒く大きな雨雲が近づけば、熱帯雨林気候特有の短時間にバケツをひっくり返したような雨が降り、そうした時は首都アクラでは冠水し洪水の被害が出る時期でもあります。このプロジェクトを開始した時期はまさにこれから雨期に入る時期という事もあり、一番の懸念がこの短時間に降る雨で作業が出来ない日々が続くのではないかとという事でした。ところが懸念していた事以上の事がこの2週間で起きるとは全く想像していませんでした。2週間前の5月28日(金)の建築現場は基盤が出来たところで作業はお休みで翌週の作業に期待していたところ、思わぬ事態が発生しました。作業をするための水が無いということで、5月31日(月)から6月4日(金)までの作業は行われませんでした。



6月1日撮影 水道は井戸水ではなくパイプを通して町から供給される水を利用。



水源に雨が降らない限り水は供給されないのも雨降り待ちを余儀なくされた建築現場、そして新たな問題も浮上したのです。5月28日、学校の代表であるアウストビ氏より内務省に建物を登録するのにコントラクターに支払っている金額を教えてくださいとワッツアップで連絡が入り、その金額を含めた回答を秋澤より6月1日にしたところ「寄贈される建物に税金がかからないのは承知している。しかしトシコプロジェクトしているものは2本の柱を使ったポーチがなく建築法で建物として認められない何の建物なのかわからない用途不明の建物なのだ。」と返信が来たのです。建物はセキュリティハウスと同じ大きさの同じ作り(扉は一つのみ)で造ることをプロジェクト開始前に相談、また秋澤の手紙をアウストビ氏に届けた時も話しをし、また建設する場所を確認した際に「校長に相談しなさい。」と言われ、校長先生が作業員に建築場所を指示した事も、また秋澤が小さい図書館を子どもたちのために寄贈することを承諾してもらいたいという手紙も全てにおいて翻されるものでした。私と秋澤の想いは一つで、子どもたちのための図書館を完成させる。そのためにアウストビ氏の言う2本の柱を使ったポーチを造り図書館を完成させるために動きました。



6月2日、コントラクターに左写真の図案を送りました。現存の図書館の大きさを変えずに2本の柱を使ったポーチ案です。(※図案では balcony と記しましたが後日6月8日に現場監督がポーチと言ったのでポーチに統一します。)翌日の3日(木)に最終支払いという事もあり、このポーチ案で話しをしたいと提案したところ、3日はコントラクターの都合がつかず、支払いは翌週の10日になりました。1週間、日が延びたという事もあり、週末の4日(金)5日(土)を使い写真の模型を作りました。図書館の大きさを変えず、ポーチを造る透かしブロックを使わないポーチと透かしブロックを使ったポーチ案です。この模型を使ったポーチ案の写真は週が明けての月曜日(7日)にコントラクターに送りました。そしてこの模型を作った週末、短時間であったものの待望の雨が降りました。作業は再開される、そしてこの模型を使って10日(水)にコントラクターとしっかり打ち合わせしようと期待しました。7日の夜、校長先生と電話で話した時に「作業が再開されたよ。」と教えてくれました。



6月8日(火)学校に行くと驚きの光景を目にしました。前日7日から作業再開になった中、ポーチ部分も作られ始めていました。それは、コントラクターに送った私のポーチ案(現存の図書館の大きさは残す案、支柱6本使用)ではなく、図書館の大きさは半分になり、半分をポーチにする造りになっていました。唖然とする私に現場監督のエネオスさんは「トビイ氏の指示でこのようにしました。トビイ氏はチーフです。チーフの意見は絶対に従わないといけません。」と言いました。図書館が半分の造りになってしまいました。ミニライブラリーがミニミニライブラリーになってしまいました。この日の夜、コントラクターに「建物の大きさが当初より小さくなり、先週私が出したポーチ案はお金がかかるけれど、半分になった図書館なので建築資材は足りるはずだからお金はかからないですよ?」と連絡したところ、また予想外の返事が返ってきました。「トビイ氏が自分の造っている学校建築のプロジェクトで将来的に水洗トイレを造る予定でいて、内務省に登録のためにトイレを造る必要が出てきて、その分の費用は請求したい。」というものでした。それに対し「私たちスプートニクの依頼プロジェクトは図書館建設でそれのみの費用は払うけれど、水洗トイレの設置費用に関しては払うことが出来ない。」と返事をしました。

そして、翌々日の 10 日(木)に工事請負費用の残りの費用を払うため水洗トイレの話もしました。



6 月 10 日(木)朝 9 時半にコントラクターのチャールズさんと打ち合わせをしました。チャールズさんは、以前、大使館の草の根案件で日本人とも仕事をした経験があり、そうした経緯から信頼できると日本人から紹介され 8 年前の机の寄贈から付き合いがあり、以来フェリシモさまの書架を寄贈やそして今回の大きなプロジェクトを依頼するに至ったのです。チャールズさんも今回一連のプロジェクトの変更にはたいへん驚いて、そうしたなか「トビ氏の要望を聞き、マダム(コクブ)が困らないように良い図書館を完成させましょう。」と言ってくれました。この午前中の打ち合わせで確認したのが、図書館に水洗トイレを加えなければならないというトビ氏の指示のもと、小さくなってしまった図書館面積では、図書館内にトイレを設置することはやらないでほしいと私から要望を出しました。夕方になって、チャールズさんから現時点でのトイレ設置の様子の写真が送られてきました。(※写真真ん中、右)要望通りに外に設置されています。前日までの作業で積み上げられたブロックが壊されトイレ部分が加えられたことを確認すると同時に、小さな図書館に相応しくないポーチの柱を見て驚きました。現在、トビ氏が敷地内に新校舎を建設中でその柱と同じデザインの柱です。「チーフの意見は絶対に従わないといけません。」とエネオスさんが言った言葉が深く深く胸に刺さりました。



6 月 11 日(金) 学校に行くと、作業員がそれぞれ丁寧に仕事をしていました。エネオスさんは現場を掃き、一人の作業員はポーチに柱の型枠を丁寧に洗っていました。仕事の丁寧さに心から感謝するしかありません。コンクリートブロックに水をかける作業は家に帰ってきて調べました。「水湿し」という言葉、そしてなぜブロックにわざわざ散水するのかがわかり、家に着いてからも作業員の丁寧な仕事に頭が下がる思いでした。連日の暑い日の作業、思い悩んでいたことがありました。作業員にお昼代を渡したいという思いです。小さな村でむやみに物を与えることは絶対に避けてきた中、そうした中でも学校内での寄贈であっても、それを聞きつけた村人はやってきます。「私にもくれ。」とやってきます。前回の報告で賃金目当てで村人が作業に参加した場合の賃金支払いについてコントラクターに確認したのもそうした事を考えてでした。作業をすれば外人からお金も

らえる。食べ物がもらえる、そうした事を避けたく正式な作業員以外の賃金支払いについて確認したのでした。しかし、こうして目の前で丁寧な作業が行われ、ましてや気温の高い中での作業には敬意を払いたい、その想いでこの日は「今日だけだけど・・・」と言い現場監督のエネオスさんに作業員全員のお昼代を渡しました。エネオスさんはじめ作業員はととても喜んでくれました。この時、気温が高い中であるにもかかわらず、追い風のような温かい風を感じました。それは、1年生の国語の教科書にある「はなのみち」の最後の場面と同じ風です。

くまさんが、ふくろを見つけました。  
「おや、なにかな。いっばいはいつている。」

くまさんが、ともだちのりすさんに、ききにきました。  
なにもありません。  
「しまった。あながあいていた。」

あたたかいかぜがふきはじめました。  
ながいながい、はなのいっぽんみちができました。

とても好きなお話です。この最後の2行と同じ風、そして歩んできた道には必ず良い結果が表れる、そう感じました。いい仕事をしている人たちは実に良い顔をしています。そして対等に話ができるとも感じました。 次回の報告は6月28日(月)を予定しています。

#### ★補足説明

ガーナのチーフ制度について

ガーナではチーフ制度と呼ばれる酋長制度があります。チーフと呼ばれるコミュニティのリーダーは部族や親族に対して絶対的な権力を持ち、祖先から受け継いできた土地を管理し、その土地で何か始める場合、チーフに挨拶をしなければなりません。



子どもたちが頭を寄せ合って本を見る場面が好きな光景でもあります。

図書館建設サポーター 一般社団法人ギブアウェイ様